Vol.326

中央大学父母連絡会

草のみどり

Kusa no Midori

2021. 7

Special feature
FRONT LiNE 文学部

巻末特集
オンライン父母懇談会開催中！

Chuo University Parents Liaison Association

国際経営学部

BE AHEAD OF THE WORLD

世界を動かす人になろう

Vol.08

世界を動かす人になろう
留学生インタビュー

Interviewer
国際経営学部事務室　金村・勝田

FACULTY OF GLOBAL MANAGEMENT

国際経営学部３年の蒋（しょう） 貝琳（かいりん）さんは、中国・上海出身の留学生です。蒋さんに国際経営学部での様子をインタビューしてみました。

Q　蒋さんはなぜ国際経営学部を進学先として選んだのでしょうか？

私が日本に留学しようと思った理由は、親戚が日本に30年ほど住んでいることもあり、安心して留学できると思ったからです。日本には２０１８年の４月に来て、その年の７月から２０１９年の３月までは日本語学校に通い、大学進学の準備を進めました。貴重な学生時代の時間を有効に使うために、英語と日本語を両方勉強できる大学を探す中で、その環境が整っている中央大学国際経営学部を選びました。

国際経営学部は７割の授業を外国語（主に英語）で行っているので、自分に合っていると思ったのです。

Q　実際、国際経営学部はどんなところですか？

初めて大学に来たときから、事務室の人が親切に声を掛けてくれ、先生たちもとても優しいので、家族のような存在に感じています。小さい学部なので、同じ学年の人とすぐに知り合いになれるし、そういうところにも過ごしやすさを感じています。

日本人の学生とも、日本語や中国語、英語を織り交ぜながら話しています。友人と一緒に勉強するときは、みんな真剣に取り組んでいるので、とてもいい雰囲気です。そのような環境で毎日刺激を受けています。

もちろん、最初は大変でした。１年次の入門演習では、英語でのプレゼンテーションや発表の準備がとても忙しくてつらく感じたこともありましたが、友だち同士で助け合えたおかげで、今は充実した毎日を過ごせています。

現在は、専門演習で日本を含むアジアとヨーロッパにおける女性の労働環境の違いを研究しています。そのほかにも、マーケティング論やミクロ経済学、コーポレートガバナンスなど、面白い授業をたくさん受けています。授業以外にも新入生ガイダンスのサポートをしたり、企業訪問の企画

にかかわったりして、学部での活動を楽しんでいます。

学生生活の中で一番印象に残っているのは、1年次の短期留学です。アメリカのUC Davis校に行きましたが、語学を習得できただけでなく、文化の違いを理解する大切さを学びました。ホームステイ先でのコミュニケーションに最初は距離を感じましたが、最後は家族のようになれました。

また、留学先では、先生が自分を過小評価せずに頑張るよう励ましてくれたので、より自分に自信を持てるようになりました。優秀な人たちに囲まれ、勉強に対してのモチベーションが高まったのを今でも覚えています。

Q 今後の計画やキャリアプランについて教えてください

大学院への進学も考えていますが、いずれにせよ日本で就職したいと考えています。外資系のコンサルティング業界や小売業界、広告業界に興味を持っています。コンサルティング業界はいろいろな業界とかかわりがあるので、将来的には転職にも役立つのではと考えています。今は日本で働いていくために、今年中に日本語能力試験N1の取得をめざして、日本語の勉強を頑張っています。そのほかにも、3年生の夏休みや春休みにはインターンシップにもチャレンジし、キャリアプランを実現できるよう励んでいきたいです。

国際経営学部だより

国際的な視野を

国際経営学部教授　田渕（たぶち） 隆俊（たかとし）

大学では勉学に勤しむことが第一ですが、サークルや旅行などの課外活動に励むことも大変大切です。

しかし今、サークルでは限られた活動しかできず、旅行にもなかなか出かけられないのが現状でしょう。コロナ禍がこのまま続くと、行動範囲が限定され視野が狭くなっていきそうです。

そこで、こういうときだからこそ、ぜひとも国際的な視野を養ってほしいと思います。グローバル化の進展とともに、市場経済は国境をいとも簡単に越えています。モノを買ったり、知識を得たり、友人と話したりするには、Google、Amazon、Facebook、Appleなどが提供するツールが必需品になってきました。これらの多国籍企業は、世界市場におけるシェアを拡大しつつあり、特にアメリカにおいて経済成長を推し進める原動力になっています。

これらの企業が大事にしているのは、多様性です。新商品や新技術を生み出すためには、書物やネットの知識だけでは限界がありますし、同質的な友人が集まって議論しても、新たな知識の獲得はあまり期待できません。

新しいアイデアや知識の創造には、多様な人たちと意見を交わし、激論することが肝要です。ハリウッドの映画、ニューヨークのミュージカル、パリのファッション産業は、異なる文化や習慣を持つさまざまな人たちの共同作業によって生み出され、今や世界をリードする産業になりました。

外国人と交流し一緒に仕事をすることによって、ビジネスや芸術はさらに発展していきます。このような国際化は、海外旅行や留学から始まりますが、残念ながら当面は叶わないでしょう。しかし、コロナ禍はいずれ必ず収束します。そのときのために、ぜひとも海外に目を向けていてほしいと願っています。